

山林所有者の苦悩

出雲ルポ

出雲市知井宮町にある山林。植林した針葉樹のスギ、ヒノキ、アスナロに広葉樹のクスギ、ケヤキなどが交じる複層林は、地元で林業を営む有限会社「やまもと」の山本和正社長（53）の所有林の一つだ。

自ら重機を操り作った、搬出作業用の幅一・八メートルの道を歩き、直径約五センチのスギの前で立ち止まり「これで六十年」と指さす。

真つすぐ伸びる「宝物」を見詰める表情はどこか誇らしげ。そこには、勢いを失うばかりの林業に苦悩しつつも、市場動向を見ながら必要に応じて間伐を

「効率第一主義でこられたら

いかにともしがたい



森林豆知識 原木の平均価格

森林荒廃の原因の一つに、木材価格が低迷し、不採算による山林管理放棄が挙げられる。山の所有者は、木を売り物にするまでに数十年にわたり枝打ち、間伐などの手間を掛けて山林を管理しなければならぬ。

島根県内の市場原木平均価格を見ると、長さ3m、直径14~18cmのスギの場合、1980年に41,700円だったのが、2005年には10,300円と約76%も落ち込んでいる。同サイズのスギは同年比で68,100円から17,700円に、島根県の銘木として生産されている松（長さ4m、直径24~28cm）も31,300円から21,200円まで下落している。

この特集は14回シリーズで掲載します
企画・山陰中央新報社



所有する山林に入り、60年先のスギを見上げる山本和正社長。ほぼ毎日、所有林に向かい、管理に余念がない。出雲市知井宮町。



枝打ちなどの手入れが行き届いた山本社長が管理するスギ・ヒノキの複層林。出雲市乙立町（資料）

林野率全国三位の島根県の東部に位置する出雲地方にあって、山本家は江戸時代から造林を行い、原木販売を業としてきた。戦後、市内七十カ所、計三百ヘクタールの山林でマツやスギ、ヒノキの造林を進め、一九七〇年ごろには人工林は百四十ヘクタールとなった。

山本社長が二十六歳で経営に参画したのもそのころ。だが、ほどなく松くい虫被害がまん延。約五十ヘクタールあった松林の順次伐採という決断に迫られ、徐々にな物の木は住宅メーカーなどから敬遠されていった。

安価な外国産材にも押され、価格は下落の一途。三下トラップと話し、全国で一千万ヘクタールといわれるスギ、ヒノキ、マツの人工林の多くが放置されているという現実を憂う。

好転の兆しは見えず、確かに山本社長の会社も経営面では苦しい。社長を含めた従業員三人で、徹底したコスト削減を図っても管理費は売上げを上回り、赤字分は借り入れで補う。しかし、山本社長は語気を強めて言う。「山の価値は経済性だけでは語れない。はげ山から手を入れて育てると、お金に換算できない価値を感じる」と。

百年の森造りは、山林の持つ多面的機能を次代に引き継ぐ作業でもある。困難にめげず、山を守り、育てることとは、林業一家の十二代目の誇りと使命の現れでもあるのだ。



村田 幸代子 (作家)

森は海の恋人

以前、富山へ取材に行ったとき、建物がないというか、姿がないというか、そんな不思議な博物館に行き当った。地図を頼りに探して行くと山の中へ入ってゆくばかり。後でわかったのだが、つまり自然の山一つをそっくりそのまま、屋根を取っ払った博物館に見立てたものだった。

そんなことを考えていると、九州の自然と民俗を調べている江口司さんの『不知火海と琉球弧（弦書房）』の中に、ドキッとする歌を見つけた。

森は海を海は森を恋いながら
悠久よりの愛紡ぎゆく
熊谷龍子
平成八年には有明海のノリ養殖の人々

漁民が山に木を植える運動があつて、右はその元歌となったものだという。私は不勉強で聞いたこともなかったの。山で働く人々ならわかるが、どうしてまた海の人々が山の森を育てようとするのか。

自然は大きな一続きなのだ。森と海は食物連鎖でつながっている。豊かな

山の養分が川をつたって海へ注がれ、海の生物を育てる。この本によると、元祖「森は海の恋人」運動の皮切りは、宮城県気仙沼のカキ、ホタテの養殖業者等、満艦飾の大漁旗を立てて植樹祭をおこなったという。

プロフィール
村田幸代子（むらたまよこ） 1945年福岡県生まれ。1985年、自身のタイプ印刷による個人誌「発表」を創刊。87年、編者として『川流』90年、『白山』で女性文学賞、98年『福徳』で川端康成文学賞、99年『龍神御天歌』で芸術選奨文部大臣賞、他の著書に『藤野行』『名文を動かす』『文章講座』『雲雨のま』『百年佳約』などがある。

森林保全活動レポート その⑩



今回の森林保全活動レポートその⑩に登場する

しまねフォレスト・ネットワーク出雲
平成8(1996)年、島根県から認定された「森林インストラクター」のうち、出雲地区周辺に住むメンバーで構成された団体。現在20数名の方が登録されており、自治体と協議しながら、下草刈りや植樹の指導を行っています。
代表者：正木 勉
連絡先：〒693-0001 島根県出雲市今市町17-5
TEL 0853-22-2473 FAX 0853-22-2630

森林を守ろう！山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん (6月18日現在) ※50団以上

鳥取県
NPO法人 賀露 おやじの会 (鳥取市)
NPO法人 サカズキネット (倉吉市)
広葉樹文化協会 (鳥取市)
財団法人 南部町地域振興会 (南部町)
大山横手道上ナを育成する会 (米子市)
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部 (米子市)
鳥取市女性の森グループ (鳥取市)
トリネット (米子市)
日野川の源流と流域を守る会 (日野町)
丸山生産森林組合 (伯耆町)

島根県
出雲市林業振興協議会 (出雲市)
NPO法人 緑と水の連絡会議 (大田市)
NPO法人 もりふれ倶楽部 (松江市)

源流の森里山づくり (邑南町)
財団法人 鳥根県西部山村振興財団 (浜田市)
里山を育てる会 (松江市)
しまねフォレスト・ネットワーク出雲 (出雲市)
薪ストーブ同好会 (松江市)
松江ネイチャーゲームの会 (松江市)
木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク (松江市)
森の仲間 (出雲市)
遊木民倶楽部 (益田市)

特別協賛
山陰中央新報社
新日本海新聞社
特別協力
凸版印刷株式会社

山陰の間伐材を利用した紙容器入り **ドリンクプレゼント**

運搬しています。特集・広告に関するご意見を郵便またはFAXで募集しています。抽選で20名様に「間伐材を利用した紙容器入りの飲料」(提供ポカコーポーション/250ml入り・24本)をプレゼントします。ご意見をお送りいただく際にお名前、郵便番号、ご住所をご記入ください。締め切りは9月30日消印有効。なお当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報にはプレゼントの発送のみに使用させていただきます。

〒690-0062 松江市魚町10 山陰合同銀行 地域振興部内
「森林を守ろう!山陰ネットワーク会議」プレゼント係
TEL.0852-55-1820 FAX.0852-28-0495

豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守ろう!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

島根県出雲市にある「一の谷公園」。

出雲市民は昔からここで花見やハイキングを楽しんできました。みんなの憩いの場といってもいいこの公園ですが、近年ではマツクイムシの被害がひどく、かつてはアカマツにおおわれていた公園の丘も、地肌がむき出しになるくらい無惨な状態になったそうです。

「大切な公園がこれ以上荒れていくのは耐えられない。」

そう思った地元の方々、市役所や県庁と協議しながら、この土地に合う樹木を植え始めました。10年近くたった今は、その時植えた木の下草刈りが必要な時期。暑い夏でもこうやって、何人もの方々が作業に精を出されていました。

「ここは町のオアシスですから、ぜひ次の世代にも、きちんと残していきたいのです。」

しまねフォレスト・ネットワーク出雲の正木さんは、汗をぬぐいながらも力強く、この公園の未来像について語られました。

手間暇かけて整備されている一の谷公園は、散歩が楽しめる、変化に富んだ、様々な樹木が育つ自然公園へ変身中です。

今後の活動予定 (参加は自由です)

10月...出雲地区林業祭 (つる籠作り)
11月...間伐材利用のテーブル・ベンチ作り体験会
ふるさとの森植樹祭、植樹指導

その他、毎月第一火曜日の19:00~21:00に出雲市総合センターで定例会を開いています。

この広告に関するお問い合わせは事務局まで

山陰合同銀行 地域振興部内
島根県松江市魚町10 〒690-0062
TEL.0852-55-1820

